

特集 1

第 1 章

企業内診断士会の新時代

コロナ禍の企業内診断士たちの活躍

井村 正規

Consulting Office MIGA 代表 / 中小企業診断士



昨年の今頃は、ワクチン接種さえ完了すればコロナ禍は終焉するものとはばかり思っていました。

しかし、今年4月現在、国民の約80%が2回のワクチン接種を終えたものの、デルタ株、オミクロン株、さらにはBA.2、XE系統などの変異株が続々と出現。感染拡大の波は一向に収まらず、3回目のワクチン接種が完了してもコロナ禍は永遠に終わらないのではないか、という懸念さえ感じています。

そんな中、私たち中小企業診断士の動き方も従前とは大きく変わっています。コロナ禍において、特に企業内診断士たちの活動はどのように変化しているのでしょうか。

本特集では、企業内診断士会の活動について紹介したいと思います。ただ、その前に、診断士試験に合格直後で、どのように力を発揮すべきか、まだ方向性が見えていない方々に向けて、「どうすれば活躍する診断士になれるのか」ということを考えてみたいと思います。

1 活躍する企業内診断士になるために

私が診断士に登録したのは2010年で、今年で13年目に突入しました。この間、非常に多くの独立・企業内診断士と知り合ってきました。

企業内診断士として活躍している方々には、いくつかの共通点があると感じています。

(1) 中小企業診断士の可能性を評価している

診断士資格について「取っても食えない」と揶揄するような話を聞くことがあります。これは本当に残念でなりません。

取るだけで食える資格などありません。弁護士であろうと公認会計士であろうと、自ら動いて法人に所属する、あるいは自ら発信して仕事を獲得するという努力なしには食っていけないものなのです。

「取っても食えない」と言い出した方は、待っているだけで仕事が次々と依頼されるという甘い期待を抱いていた、かなり残念な方だろうと思います。

しかしながら、この待ちの姿勢にとどまる企業内診断士は、実際には多数存在しています。でも、待っていても仕事は来ません。なぜなら、あなたが自ら発信しない限り、だれもあなたが診断士であることを知らないからです。

逆に、活躍している診断士に共通していることは、たとえ企業に勤めていても、一人の診断士として自ら発信し、さまざまな活動を推進していることです。活躍している診断士は、おそらく誰も

「取っても食えない」とは考えていないでしょう。この資格の可能性を高く評価している、あるいは自分でこの資格の可能性を高められると信じているのです。

(2) 会社と良い関係を作っている

活躍している診断士は、会社との関係も良好であるケースがほとんどのように感じます。

企業内診断士が社外で報酬を得る仕事を行うことは、副業となります。私が診断士に登録した際にも、報酬を得る仕事に直面する場合は考えました。

最初に確認したのは、勤務先の就業規則の内容です。私の勤務先の場合は、「『会社に無断で』副業を行ってはならない」という条文が記載されていました。

なるほど、「副業が禁止」なのではなく、「無断での副業が禁止」だと理解して、さっそく人事部の担当者に相談しました。13年前のことですから、現在のように副業は一般的ではありませんでした。人事部担当者も副業について問い合わせを受けた前例がないとして、できれば穏便にあきらめてほしいという様子でした。説得するのに、1~2ヵ月かかったことを記憶しています。

最終的に会社側が副業申請の提出を認めた背景には、上記の就業規則に「無断で」と明記されていることから、従業員が提出を希望したときに断るための理論武装が不可能なことを認識したからであろうと感じています。

ほとんどの企業では、副業を全面的に禁止するのではなく、「無断での副業は禁止」とされていると思います。ただ、いまだに「副業は禁止」としている会社もあるでしょう。そこには合理的理由があるというよりも、人事担当者本人が前例を作ったという記録に残るのを嫌うためではないかと思えます。

また、活躍している診断士の仕事上のもう1つの共通点は、仕事が早いということかもしれませ

特集 1 企業内診断士会の新時代

ん。活躍できていない診断士の言い訳は、いつも「会社の仕事が忙しくて……」であっさりします。

活躍している診断士の会社の仕事が忙しくないのかといえば、決してそうではありません。診断士の業界で活躍している方々は、勤務先でもその実力を買われ、膨大な仕事量をこなしているケースが多く見受けられます。

共通して言えることは、仕事が早い、スキマ時間の見つけ方がうまい、勤務先での業務と診断士の仕事を両立して、効率良くこなしているということです。

(3) 家族とも良い関係を作っている

「受験生時代は家族のケアができなかったから、試験合格後は診断士関連はひとまず横に置いて家族サービスだ!」という話もよく聞きます。でも、資格は取ることがゴールではありません。合格はスタート地点であると思います。

活躍している診断士の方々は合格直後に自らブレーキをかけることはしません。逆にロケットスタートと称して、すごい勢いで診断士としての活動を進めていく方が多いと感じます。

では、家族との関係が良くないかという点、そうではありません。むしろ、家族とコミュニケーションをしっかりと取ることで、家族からの理解を得ている方が多いように思います。

特に企業内診断士が会社の勤務以外の時間を診断士業務に充てる場合には、家族と過ごす時間が短くなってしまうことを恐れます。しかしながら、活躍している方々は、会社の業務を効率化して時間を捻出したうえで、家族へのケアは内容の濃さで対応し、時間の短かさというデメリットを解消しているのです。

(4) 仲間の巻き込み力が強い

活躍している診断士に必ず見られる共通点として最後に挙げておきたいのは、仲間の巻き込み力が強いという点です。